

# 多摩市役所本庁舎建替基本計画特別委員会

## 要点記録

日 時： 令和6年1月25日（木）  
午後1時00分～午後1時36分  
場 所： 第一委員会室

出席委員	委員長	池田 けい子	副委員長	大くま 真一
(8人)	委員	遠藤 ちひろ	委員	岩永 ひさか
	委員	渡辺 しんじ	委員	いぢち 恭子
	委員	小林 憲一	委員	いいじま 文彦

出席説明員	行政サービス・アセット担当部長 (兼) 総務部参事	榎本 憲志郎	新庁舎整備担当課長	室井 裕之
-------	------------------------------	--------	-----------	-------

## 案 件

	件 名
1	多摩市役所本庁舎建替基本計画について

午後1時00分 開会

池田（けい子）委員長 ただいまの出席委員は8名である。定足数に達しているので、これより、多摩市役所本庁舎建替基本計画特別委員会を開会する。

本日の日程はお手元に配付したとおりである。本日配付された資料は、行政資料室に所蔵している。

日程第1、多摩市役所本庁舎建替基本計画についてを議題とする。まず経過だが、11月10日開催の委員会において、市側から、基本計画策定に向けたスケジュールや議会機能を含めた検討事項等についての説明があり、11月16日の委員会では、これらの内容についての質疑を行った。12月18日の委員会では、基本計画全体の検討状況の報告を受け、質疑を行った。

本日は、その後の基本計画検討の進捗状況について、その他もあるが、報告していただきたいと思う。それでは、提出された資料に基づいて市側の説明を求める。

榎本総務部参事 よろしく願います。それでは、早速、お配りした資料に基づいて、説明をさせていただきたい。具体的な説明については、資料に基づいて、室井担当課長のほうから説明させていただくので、どうぞよろしく願います。

室井新庁舎整備担当課長 それでは、よろしく願います。

本庁舎建替基本計画の策定方針に沿って検討している中で、12月18日の特別委員会において、策定委員会及び幹事会での検討結果についてご報告をさせていただいたが、本日はそれ以外の部分について、追加でご報告させていただくものとなる。

まず、1つ目については、プロジェクトチームで検討していることの中間報告となる。資料1の「多摩市がめざすワークスタイル～PT中間まとめ～抜粋版」の資料をお開きいただけるだろうか。

プロジェクトチームでは、本庁舎建替基本計画の検討をするに当たり、新庁舎の執務空間等のアイデアを検討することを想定して、係長級以下の若手職員を中心に設置したものとなって、現在23名の職員が参加している。

プロジェクトチームでは、昨年12月までに6回開催し、理想のワークスタイルとそれを実現する執務空間について意見交換を行ってきたが、今回は第4回までに意見交換を行い、中間取りまとめを行った理想のワークスタイルに関する部分のご報告となる。

プロジェクトチームでの検討の流れとしては、2ページとなるが、7月から10月にかけて4回開催して、主にワークショップ形式を中心に意見出しを行ってきた。市民にとって、あるいは職員にとって幸せになるための要素は何か、働き方・仕事の仕方の理想は何か、順を追って意見交換を行ってきた。

次に、3ページをご覧いただきたい。検討に当たっての基本認識としては、人口減少と職員減少、ライフスタイルやデジタル環境の変化、市民ニーズの多様化や庁舎の建て替えといった状況がある中で、仕事の仕方と働き方を見直し、市民、職員、家族みんなが笑顔になれるようにということで、既存のルールや環境などに縛られない中で意見交換をしてもらった。

次に、4ページをご覧いただきたい。ワークショップを通じて、メンバーからは、周囲の理解を得ながらのワーク・ライフ・バランスであったり、AIの活用、オンラインの効率性とオンライン以外の大切さなど、様々な意見やキーワードが出てきた。

次に、5ページをご覧いただきたい。理想のワークシーンについて意見交換を行い、どのような要素が大切にされているか話し合いをしてもらったところ、多様性、柔軟性、効率性、有効性、変革への意識、つながりといった6つの要素を重視していることが浮かび上がってきた。

次に、6ページをご覧いただきたい。効率性・有効性では、無駄はなくしながらも、市民一人ひとりに目を向け、各人及び組織として最も効果的に働くこと。多様性・柔軟性のところでは、環境の変化に合わせて、場所や時間に縛られず、自分に合った働き方、仕事の仕方が選択できること。そして、これらの要素の前提にあるものとして、今よりもよくしたいという変革への意識と、業務は個人で担うのではなくチームとして担うというつながりということが出てきた。

各自、各職員が最大限その能力を発揮するために、時間や場所等に縛ら

れることなく、しかし、個人ではなく職場の仲間とつながり、常によりよくなるように意識する、変革する意識を持って取り組むことで、最大の効果、つまり、住民の福祉の向上につなげていくこと。そして、これをキャッチフレーズとして表したのが、7ページになる。「しばらく、つながって、自分と組織を変革・最適化～TAMA×able～」ということで、キャッチフレーズとして「TAMAb1e（たまぶる）」というところを考え出した。

次に、8ページとなる。「TAMAb1e」という言葉に込められている意味を解説しているページとなる。Tには、Tsunagaru（つながる）、Transformの「変革」、Twinkleの「笑顔」が込められている。次のAには、Anytimeの「いつでも」、Mには「みんな（Minna de）」、Aには「どこでも（Anywhere）」という言葉が込められている。

また、TAMAb1eという言葉の中には、「I am able（できる）」、いろいろな可能性を持つこと、また、多摩らしくという意味も隠れるように意味が込められているものとなる。

プロジェクトチームの4回のワークショップでは、このような理想のワークスタイルについて取りまとめをしてきており、その後、視察で得た情報や、開催した第5回、第6回を使って、これらの理想のワークシーンを実現するための執務空間について意見交換を行いながら、メンバーの中のリーダー、サブリーダーと一緒に、現在、最終まとめの報告書を作成しているところとなる。

プロジェクトチームに関する中間報告に関する説明は以上となり、次は、ヒアリングの実施状況の報告となるので、もう一つの資料、資料2「本庁舎建替基本計画検討にあたってのヒアリング状況」のほうをお開きいただけるだろうか。基本計画の策定に当たっては、障がい者と若者へのヒアリングを計画している。

まず、①のところになるが、障がい者へのヒアリングについては、障害福祉課と連携をして、11月8日に開催された地域自立支援協議会でお時間をいただいて、基本構想の概要について説明をしながら、ご意見の募集

のほうを行わせていただいた。当日または後日おいて、内容的に分類すると18件のご意見をいただいた。

意見募集の内容については、広く意見を募ってほしいとか、当事者の方の意見をしっかり聞いてほしいといったご意見が多くあった。

バリアフリーに関するご意見のところでは、トイレ、通路、エレベーターの広さや機能、また、スロープの位置などについてご意見をいただいた。

そのほか、案内表示や敷地内などの動線、プライバシーの配慮、優先調達などについてもご意見をいただいた。

意見募集に当たっての説明の中では、建て替えに向けての意見交換のスタートだということで説明をさせていただき、この後についても、今後予定をしている基本設計の段階などでも意見募集など、また、障害福祉課をはじめ、関係課と調整をしながら進める予定としている。

次に、②番のところ、若者へのヒアリングについて、現在、多摩大学附属聖ヶ丘高等学校のご協力を得て、意見募集のやり取りをさせていただいている途中の段階となる。前半、後半で2日の計画をしているが、まず、1日目については、1月10日にこちらのほうは実施済みであるが、この日は12名の生徒さんに参加をしていただいて、市役所についてイメージであったり、見学を予定しているが、見学した際の職員への質問について意見出しをしていただいた。

2日目については、市民目線のチームと職員目線のチームに分かれて庁舎を実際に見学していただいて、職員に質問をしてもらいながら、庁舎のよいところや改善が必要なところなどについて意見を出していただく予定としている。

今回、資料作成をしている時点では、1月24日、昨日に実施予定だったが、学校のほうで学年閉鎖が入ってしまったものだから、現在、日程の再調整をしているところである。これらを通じて、いただいた意見については、基本計画の検討体制の中で共有をいたしながら、基本計画の検討を引き続き行ってまいるものである。

池田（けい子）委員長 ただいま進捗状況について報告をしていただいた。

では、ただいまの説明について質疑を行いたいと思う。質疑をする際に

は、資料のページ数もしっかり示してから発言していただきたいと思う。

それでは、これより質疑に入る。質疑はないか。

いちち委員　ご説明ありがとうございます。質疑というより要望なのだが、ただいまいただいた資料2について、口頭で幾つかこういった意見があったということはわかったのだが、もう少し詳細というか、これ、おそらく市側で共有していらっしゃると思う、このヒアリングの結果。それを私たちにも見せていただくことはできるのだろうか。

室井新庁舎整備担当課長　特段問題はないので、後ほど、共有で張りつけをさせていただく。内容的には、基本計画に反映したい内容、したい内容というところと違ってしまうかもしれないが、どちらかというところ、設計のときにいただいて検討する類いの意見がほとんどだったというところもあって、今回、カテゴリー的な分類で件数を入れさせていただいたものであるが、後ほど共有をさせていただく。

いちち委員　ありがとうございます。

池田（けい子）委員長　よろしいか。ほかに。

小林委員　プロジェクトチームの3ページのところに、取り巻く環境の変化というところで、一番上に人口減少に伴う職員の減少ということがありますが、本庁舎は6年後に建て替えられて、それから10年とか20年先を見越していくことになると思うが、ただ、10年とか20年とかだとそんなに極端に人口は減らないと。50年とか100年単位で見ると、かなり顕著にこれから人口減少になると思うのだが、それはどんなふうを考えているのかということと、それから、人口減少に伴う職員の減少ということであると、大前提として、今の職員数で足りているということが大前提になると思う。そういう認識でいいのかということと、それから、これはもちろんプロジェクトチームの話をした時期は去年のことになるのだが、今度の1月1日の能登半島地震のことで、いろいろ被災者に対して十分な手だてが尽くせないということが今盛んに報道されているが、その中で、この間、能登半島の地域というのは、平成の大合併があって、かなり市町村合併がされて、それに伴って職員数が大幅に減らされている。職員がかなり減ったということが、ああいう大災害が起きたときになかなか手だてを尽くせないとい

うことにつながっているということもいろいろ報道されているので、今、多摩市がぎりぎりの職員数でやっているとするれば、災害が起こったときには、それでは多分足りないということになってくるので、そういうことも踏まえた職員数はどうあるべきかということを私は考える必要があるかと思っている、その辺の今の認識をちょっと伺いたい。あと7ページのところに、これはTAMA b 1 eに関係してくる。「しばられず、つながって、自分と組織を変革・最適化」とあるが、この「しばられず」というのは、何に縛られないということの意味しているのか。

室井新庁舎整備担当課長 まず最初に、規模と職員数のお話をさせていただければと思う。

構想の段階では、本庁舎に入る職員数が800人で、規模としては1万8,000平方メートル。基本計画の中でこの辺りの精査をするところの中では、将来的に職員数がどう変わっていくのかということも検討しなければいけないところではある。ただ、職員数を推定していくというところは、人事課とも話をさせていただきながらやっているところだが、なかなか難しいところがあって、1つの目安としては、将来的な人口推計が、今主に使っているのは、まち・ひと・しごと創生総合戦略で出ている人口推計があるが、これをもとに、人口が一定程度減ったときに、職員数が同じ割合で減ったとしたら、今の職員対人口の割合が変わらないという前提で計算してみるとすると、職員数はこれぐらいになるのではないだろうかということを目安としながら、将来的に、将来的にとっても、なかなか何十年先を見越すというのは難しいけれども、人口推計が出ている範囲である程度の区切りとなる年を捉えて、必要な規模というところを算定する方向で今、やり取りをしているところである。

職員対人口の割合というところは、聞くと26市の平均の中では、比較的中位にあるところの中では、ちょっと多いとも少ないとも。災害対応のときにどうかというところは、また今回の震災を踏まえて意見交換をしたいと思っているが、今の考え方としては、基本的に人口推計に応じて職員数が減るのではなかろうかという推測の中で規模を定めようかというところで詰めているところとなる。

ただ、まち・ひと・しごと創生総合戦略で出した人口推計も数年前に出



たもので、年末に新しい全国的な人口推計が出されているので、これをどう加味できるかどうかというところも、併せて検討しなければいけない課題かと思っている。

もう一点、「しばられず」というところで、何に縛られないのかというところでいただいた。ワークショップの中では、特にこれからペーパーレスを進めなければいけない。ペーパー、データが紙に載っている状態にあると、紙のあるところでないとなかなかできない仕事も生じてしまうというところでは、ペーパーレスを進めてデータでやり取りをすることで、ネットワークがつながっていれば、場所に縛られずに働けるというところ。そういったところで、今、事務仕事は多くの職員が自席でやっているところがあるが、その仕事に最適な場所でやる。場合によっては、集中できる場所であったり、ウェブ会議はウェブ会議ができるようなところで、市民の方との相談事で、本庁舎でのやり取りがふさわしくなければ、出先というか、地域の施設のほうへ赴いてやり取りをしていく。そういった場所的な自由度ということも含めて、縛られずという思いがここに込められているところである。

小林委員 後半の、場所に縛られずというのはそういう意味だということなのだが、それだったらこんなに大仰に書かなくてもいいかなという気がするが。

それとあと、職員数と人口数ということを挙げておっしゃっていたが、人口減少に伴って職員数も減ることになるのではないかというお話だったわけだが、私は、そういう委ねたようなものではなくて、多摩市が多摩市としてこういう仕事をしていくためにこれだけの職員数が必要だと。例えば、人口に対してこれだけの職員が必要だということ、多摩市として意識的に決めていくべきものではないかなと。それはだから、全体的な人事課との話というのもあったが、そういう大きなところで決めたことがもともとになって本庁舎の内容にもつながっていくということだと思うので、多摩市は、どのような原理原則で職員数を決めるのかというところをやはりはっきりさせる必要があるのではないかと私は思う。

池田（けい子）委員長 ほかに質疑はないか。

いぢち委員 今回の小林委員の質問に関連して、つながりのところだが、6ページ目を

見ると、つながりの部分には、個人でなくチームでとある。個人で行動することはふえるが、つながりを意識して仕事したい。また、一人で抱え込ませない。これは非常に重要だと思う。先ほどのご説明は、私もちょっと物足りなく感じていて、つながるといことは、私はむしろチームとして働く、それから、一人で抱え込ませないって、すごく大事だと思っている。

また、もう一つは、多摩市も健幸まちづくりや多摩市版の地域包括ケアシステムで、課をまたいで包括的に市民の皆さんの多様なニーズやお困り事に応えるのだということはずっとおっしゃっているわけだから、そういった意味でのつながりというところを重視すると私は考え、それをもっと強く打ち出していきたい。

それともう一つ、変革への意識のところ、これは多分、一例なのだと思うが、DXを進めたいとぼんとあって、変革というのがDXだけというのちょっと納得し難いというか、この辺、もう少し掘り下げていただきたいと思っている。今よりもよくしたいというのは、必ずしもデジタル化とイコールではないと思うし、もちろんそういったことをいろいろお考えなんだと思うが、それをもう少し表面に出していただきたい。今伺った2点に関してご意見をいただきたいと思う。

室井新庁舎整備担当課長 今回、プロジェクトチームということで若手中心に入っていたいて、テーマ設定が、理想の働き方・仕事の仕方というところのテーマが1つと執務空間なのだが、理想の働き方というところ、そこで出てくる意見というのは、自分の個人としての仕事への取り組み方というところが意見としては多くなってきてしまうところがどうしてもあって、ただそれでも、仕事をする中では1人で抱え込まずというところの中で、また、いろいろな場面で、オンラインでつながる中で、働き方の自由度を高めていく中では、必ずしも同じ場所に参集して仕事をするわけではなくて、場所的にはばらばら。だから余計、より一層コミュニケーションが必要だという思いは意見としては出てきているところだが、その前提のところはどうしてもあって、つながりのところを重視して意見交換をするというところにはちょっと行けていないところがある。

その辺りまた、最終報告に向けて、一応、ワークショップは6回という

ところで、予定していた回数を終えて、今、最終報告をまとめている段階であるので、ご意見をいただきながら、さらに修正をしながら議論をする場というのがちょっと今予定がないものだから、そこはご容赦いただければと思っている。

なので、変革への意識というところで、今仕事を、プロジェクトチームのメンバーがそれぞれの部署で働いている中で、ここはこうしたほうがいいのに、こうなったらいいのにといい思いを胸に抱えながら、DXによって、あるいは、場合によってはデジタルではない手法でよりよくしたいという思いが大切だということの中で、今回、このキーワードの中に、あるいは6つの要素の中に入ってきたものである、そんな経過で出てきたものとして読んでいただければと思う。

池田（けい子）委員長 とりあえず、表題をしっかりと頭に入れていただきながらということの今日は説明なので、ワークスタイル、働き方・仕事の仕方ということをしかりと今、中間報告をしていただいているということの確認はしっかりと押さえておいていただければと思う。

その上で、いちち委員。

いちち委員 私が付いたことと答えがずれているようにしか感じなかった。申しわけない。もちろん、中間報告ということはわかっているし、ご説明はご説明として受け止めた。ただ、先ほどの小林委員へのお答えの中で、7ページと6ページが繋がっていないと、それこそ感じたので付いたのだが、今後の掘り下げに期待していくが、わかった。

池田（けい子）委員長 よろしいか。

岩永委員 ありがとうございます。これ、抜粋版ということなので、抜粋だから、本編というのはもっとしっかりといろいろなことが書き込んであるのかなと思うが、私たちがこのことについて聞きたいと言った根本的なところは、今、本庁舎の建て替えを考えるに当たってということだと思う。なので、このプロジェクトチームの流れのところから言うと、第2回で、例えば市民と職員が幸せになる庁舎というのはどんなものなのかということについて聞きたいし、第3回のDXと新庁舎で理想のワークシーンは実現できる？ と、この2つのところでどんな意見が出たのかということ詳しく聞きたいな

と思った。

一応、検討に当たっての基本認識ということで、執務空間みたいなことについては全然ないが、結局、この内容から、庁舎の建て替えとどう結びつくのかみたいなところが全く理解ができないというか、その内容については全然触れられないから、今小林委員とかいち委員がおっしゃったように、職員の働き方みたいなほうについて視点が行ってしまうのだが、私たちは今、本庁舎の建て替えをどうするかということで、例えば、みんながもっとフレキシブルな働き方をするということは、時間も縛られないし、場所も縛られないし、言ってみれば、例えば自分の自宅で仕事ができるということになったら、その分、床面積が減るわけである。そんなことを考えているかどうかは別だが。でも、極端なことを言ったら、床面積を減らしたいから、例えば、職員1,000人で働く市役所を考えていたが、それを800人にしたときどうなるのかということで設計するとか、そういうことのためにやっているのかどうかというのが全く見えてこないから、この報告を受けて私たちに質問しろとか、何かもしそちらに意見を言うとして、どういう観点で言えばいいのかということが全くわからないでまず聞いたと感想を申し上げたい。

その上で、私は、職員の皆さんが、市民と職員が幸せになる庁舎というのはどういう庁舎だと、そのときに結論としてまとめが出たのか。あるいは、どんな意見があったのか。あるいは、第3回の、さっき言ったように、DXと新庁舎で理想のワークシーンというのが実現できるのかということを知りたいなと思った。

というのも、要するに、つながってって、例えば、6ページのところで、公共施設に訪問して、相談対応とか地域の課題を話し合っ、公共施設でそのまま仕事とある。ということは、行く先の公共施設にきちんとWi-Fiが敷設されてなくてはいけないということである。それって別に、建て替えの問題とは関係ないわけ。だって、今だって、いろいろなコミュニティセンターでWi-Fiを当たり前のように職員も使うことができれば、そこで仕事ができるからという話になるから、一応書いてあるのだが、このことと、これが庁舎の建て替えにどう影響してくるのかということとの関

連性が全く見えないので、ぜひその関連性がわかるようにこういうものを整理して私たちの委員会に出してほしいなと思っているが、その点について伺いたい。

室井新庁舎整備担当課長 私たち新庁舎整備担当として、欲しい本題のところは、この後の第5回、第6回の執務空間のところ、どんなところで働きたいか。今回、その前段として、その場所で働くに当たってどんな働き方が理想なのかという前提の段階でのお話で今回中間まとめになっているので、それがどう新庁舎整備のハードの部分に結びつくかというところがわからないのは、今の段階ではもっともなところである。

次回というか、最終報告がまとまった中では、その中で、これを踏まえてどんな場所で働きたいところを第5回、第6回で意見交換をした中で、まとめて報告書に入れてあるので、そちらを見ていただきながら、次回の最終報告については、抜粋版ということではなく、通常の形でご報告をしたいと思っているが、そちらをまた見ながら意見交換をさせていただければと思うので、今回、前段のところの理想の働き方みたいところだけでの報告になっているので、そこにご不満はあるかと思うが、次回にご期待いただければと思う。

岩永委員       なので、次回、お話を聞いていいと思うが、当然ながら、ワークショップの人たちがこう考えていた、ぼんっと出るのではなくて、そのことを踏まえて、庁舎の担当者の人たちは、その設計の中でこういうふうにかせると考えたということまで出してもらって、そこの中で私たちが意見を言っていくということだと思う。これ、抜粋版じゃなくて、全部、最終報告書を今まとめているから、それを出してそれを見てほしいではないということきちんと認識をして、適切な資料提供をしていただきたいということだけお願いしておきたいと思う。

池田（けい子）委員長   ほかに質疑はないか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

池田（けい子）委員長   よろしいか。

では、以上で質疑を終わる。ありがとう。

本日は、基本計画の骨子案の取りまとめに向けた検討状況の報告をして

いただいた。今後としては、12月20日の議運で確認したとおり、2月22日に骨子案が固まる予定のため、全議員を対象とした説明会を開催する予定である。その説明会では、特別委員会の委員以外の議員にも参加をいただいて、議会全体として情報共有を図りたいと考えている。

また、その説明を受けて、次、意見交換を行うことを想定して、令和6年第1回定例会中に、3月7日と3月22日の2回、特別委員会を開催し、骨子案についての協議、整理を行いたいと思うので、今、岩永委員が指摘されたことも2月22日に行うということで、ここまでよろしいだろうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

池田（けい子）委員長 では、そのようにさせていただくので、よろしく願います。

では、次に、基本計画の議会エリアについての検討の進み方を確認したいと思う。

議会エリアについては、議会機能を実現するための計画をどのようにすべきか、また、基本計画に基づき進められた庁舎が実際どのようなになったか、直近で建て替えを行った清瀬市と府中市、そして建て替え後、数年使用している立川市に、1月9日と1月10日に視察を行った。視察の中で、議場や議会諸室の仕様や動線、またセキュリティ対策やユニバーサルデザイン、災害時の利用や多目的利用について、事前に皆さんから出してもらった意見が実際にどのようなになっているのか。また、出されている意見以外にも、基本計画に盛り込むべき項目、内容があるかを中心に確認をしてきた。総務常任委員会に始まる、今までの視察の結果等も踏まえて、議会エリアの計画に盛り込むべき内容についてさらに協議を進め、最終的には1月29日の特別委員会で、基本計画議会エリアの具体案を確認・決定し、基本構想を市へ送付したときと同様に、1月末までに市へ参考送付とすることが1月17日の議運で確認されているので、以上のとおり進めていくということでよろしいだろうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

池田（けい子）委員長 では、そのように進めさせていただくので、よろしく願います。

何かここまででご意見等あるだろうか。よろしいか。

では、以上で本日の日程は全て終了した。これをもって多摩市役所本庁

舎建替基本計画特別委員会を閉会する。

午後 1時36分 閉会

多摩市議会委員会条例第28条第1項の

規定によりここに署名する。

多摩市役所本庁舎建替基本計画特別委員長

池田 けい子